



東海大学大磯病院 医学豆知識

通 卷・ 第 141 号 ©
発行日・ 2021 年 11 月 15 日
発行・東海大学医学部附属大磯病院
発行責任者・病院長 島田 英雄

AD：アトピー性皮膚炎について

～成人型 AD の詳しいお話～

【はじめに】

アトピー性皮膚炎（atopic dermatitis：以下 AD と略す）は乳幼児期から成人まで幅広い年齢層で見られ、掻痒（そうよう）のある湿疹の増悪・寛解を繰り返す皮膚疾患で知られています。ここでは、成人型 AD についてご説明します。



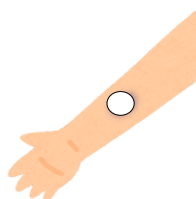
【分類】

AD は内因性と外因性に分けられ、外因性 AD はアトピー素因の①気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎など家族歴・既往歴を有する、または②IgE 抗体を産生し易い素因を有することが多くなっています。一方、内因性 AD では IgE 抗体は正常であり、金属アレルギーが多くみられます。女性に多く、AD 全体の約 20%を占めます。

また AD は皮膚が乾燥しやすく、皮膚のバリア機能に必須の蛋白であるフィラグリンに障害があります。日本人 AD の 27%はフィラグリン遺伝子変異が発症因子となっており、外因性 AD に多くみられます。

【検査】

採血検査、パッチテストなどを施行した結果に基づき、内因性と外因性の同定を行い、治療を選択されることが望ましいと思われます。治療効果の判定には、皮膚状態はもちろんのこと、採血検査で血清 TARC 値を確認し、潜在的な炎症の評価を行っていく必要があります。



【治療】

AD の標準的な治療は、適切な薬物療法、増悪因子の除去、スキンケアを 3 本柱とします。しかし、最近では①proactive 療法により、皮膚に残る潜在的な炎症を抑制し湿疹の再燃を予防します。②JAK 阻害薬は従来のアレルギー性炎症に対する薬剤と作用部位が異なり、とくに外用薬においてはステロイドで心配される毛細血管拡張、皮膚菲薄化などの副作用を生じません。③生物学的製剤も登場し、掻痒への鎮静効果、また急性の増悪を繰り返している場合にも良好な治療効果を示しています。



【おわりに】

AD は全員が同じ均一なメカニズムではなく十人十色といえます。皮膚科では、より個々の病態に寄り添った治療提供を心がけていますので、お悩みの方はお気軽にご相談ください。

— 筆者紹介 —

たみや しほ
田宮 紫穂



1973 年生 神奈川県出身
1997 年 東海大学医学部卒
東海大学医学部医学科専門診療学系皮膚科学 講師
東海大学医学部附属大磯病院 皮膚科医長
日本専門医機構認定皮膚科専門医
日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会生会員
日本アレルギー学会正会員
【専門領域】接触皮膚炎 ゴ瘡